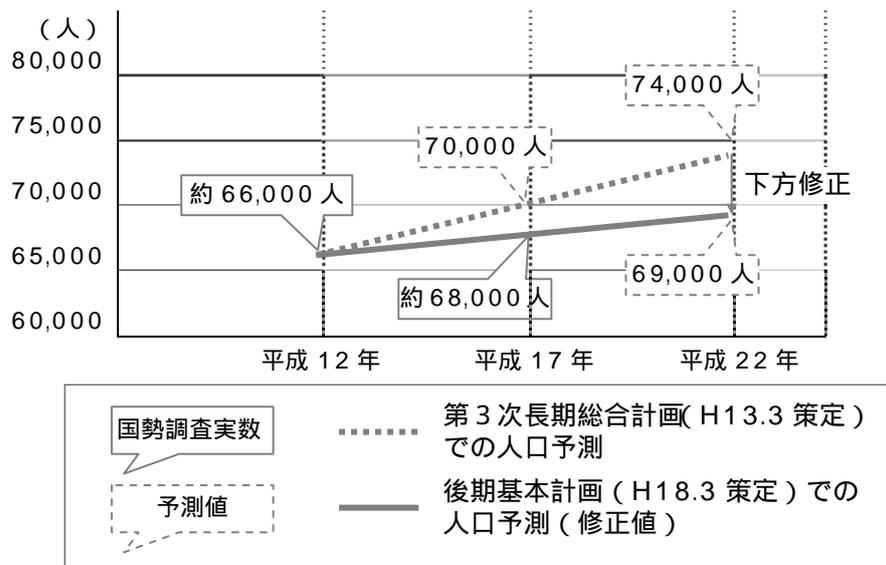


人口フレームについて

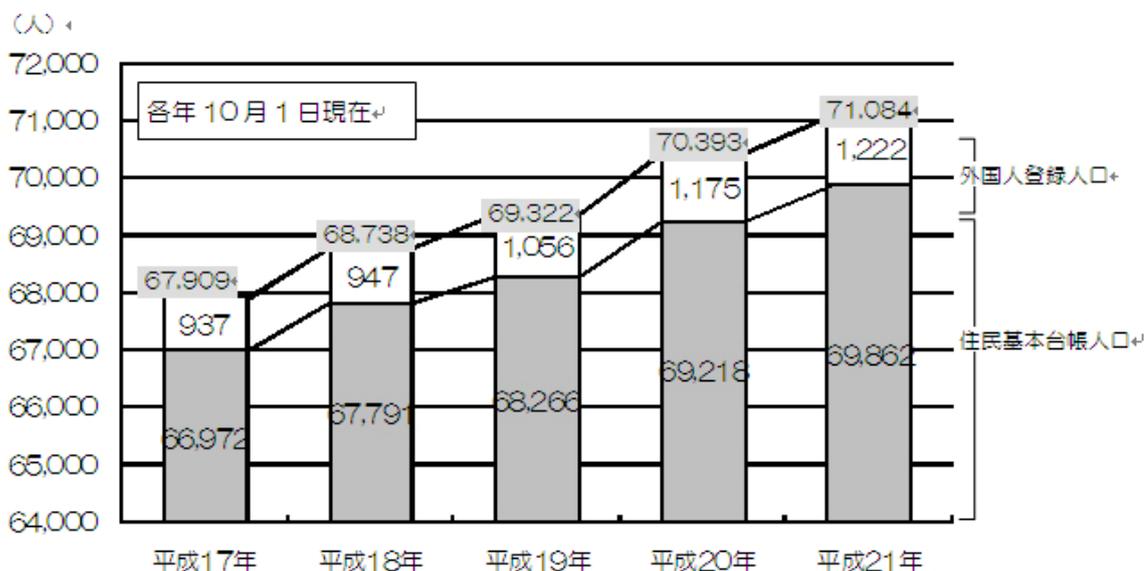
1. 人口フレーム

(1) 第3次長期総合計画における人口フレームと現状

平成13年に策定された第3次長期総合計画では、平成22年の人口を74,000人と予測していましたが、後期基本計画策定時(平成18年3月)に実数との乖離があったことから、後期基本計画では平成22年の人口を69,000人に下方修正しています。



平成17年から平成21年(10月1日現在)の人口データ(住民基本台帳人口+外国人登録人口)は次のようになっており、後期基本計画での予測人口(平成22年)を既に上回っています。特に平成21年の外国人登録人口は平成17年の約1.3倍となっています。



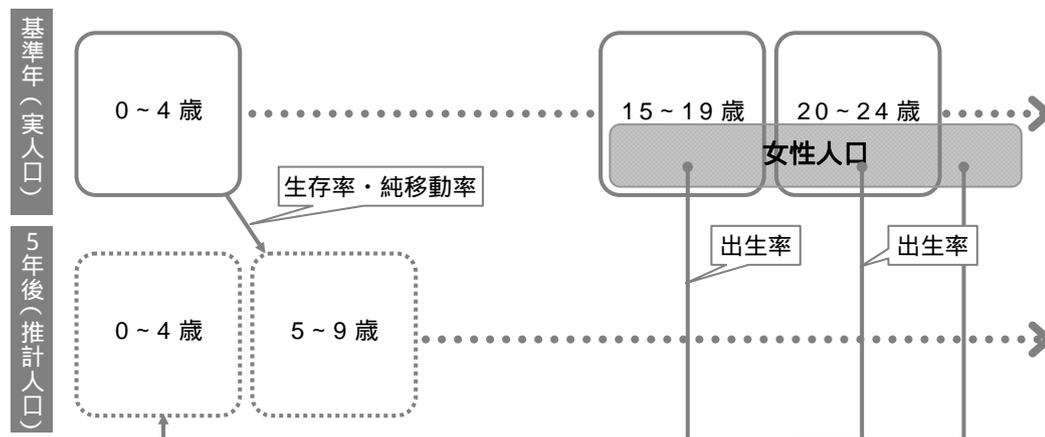
(2) 第4次長期総合計画における人口の推計

第4次長期総合計画（目標年次：平成32年）の策定にあたり、次の3つの方法で人口推計を行います。

- 手法 「国勢調査人口」を基にした「コーホート要因法(*1)」による推計
- 手法 「住民基本台帳人口(含む外国人登録人口)」を基にした「コーホート要因法」による推計
- 手法 「住民基本台帳人口(含む外国人登録人口)」を基にした「数学的手法(トレンド)(*2)」による推計

(*1) 「コーホート要因法」とは...

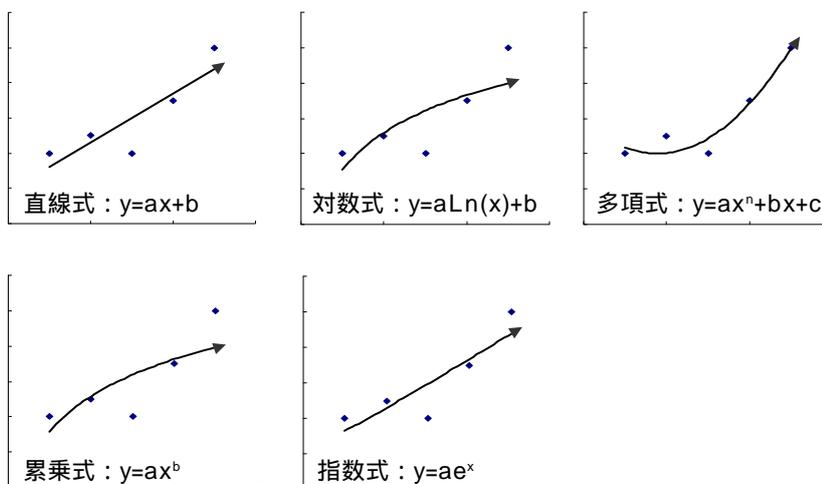
ある年次の男女の5歳階層別人口を基準として、これに国立社会保障・人口問題研究所が出している都道府県別の「出生率」「生存率」「純移動率」のデータを用いて、人口の変化を5年ごとに追いながら将来の人口を推計する方法であり、最も一般的に使われています。



(*2) 「数学的手法(トレンド)」とは...

過去における人口データの経年変化に対する近似式を当てはめ、数学的に将来の人口を推計する方法です。

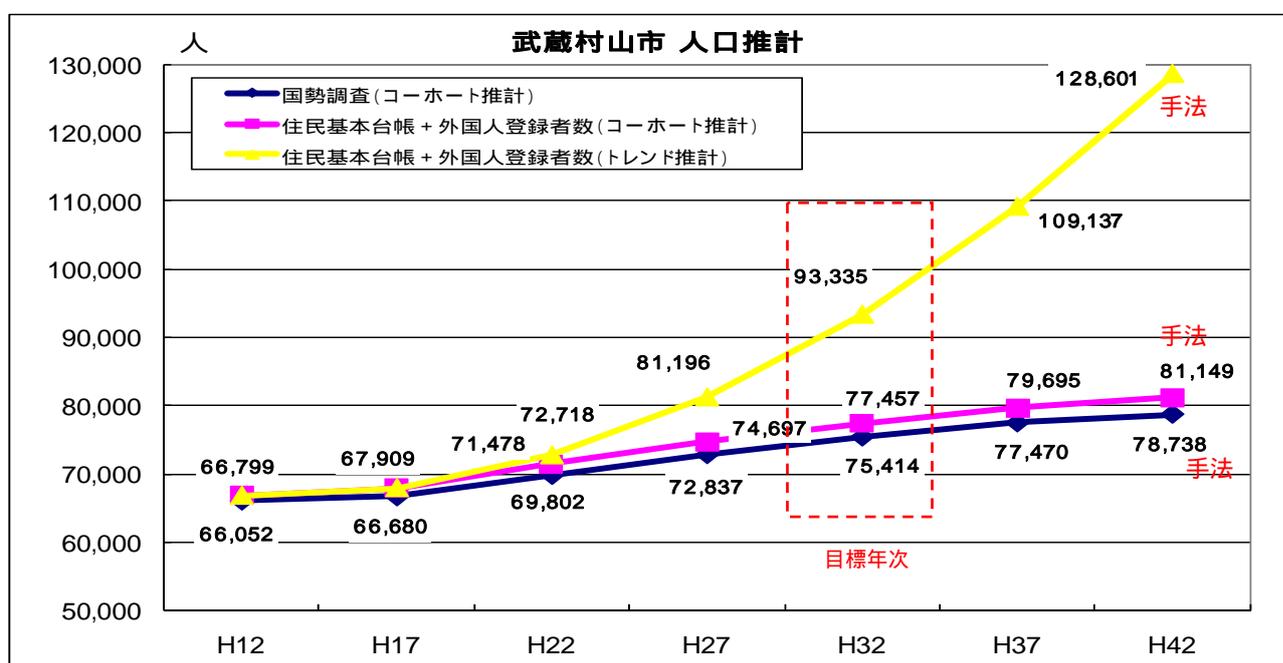
基本的に、これまでの傾向が今後も続くという前提で簡略的に推計を行うことができます。



(3) 推計結果

先の3つの手法による推計値は下表のようになります。

		H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42
手法	人口(人)	66,052	66,680	69,802	72,837	75,414	77,470	78,738
	増加率		1.00	1.05	1.03	1.13	1.16	1.18
手法	人口(人)	66,799	67,909	71,478	74,697	77,457	79,695	81,149
	増加率		1.00	1.05	1.10	1.14	1.17	1.19
手法	人口(人)	66,799	67,909	72,718	81,196	93,335	109,137	128,601
	増加率		1.00	1.07	1.20	1.37	1.61	1.89



トレンドにより推計した「手法」では、右肩上がりの傾向を示していますが、近年の様々な社会的変化要因(少子化の進行、経済状況に伴う転入・転出人口の変化など)を考慮すると、人口の伸び率は落ち着いてくることが予想されます。

また、現在の人口が、国勢調査人口を基本とした「手法」における平成22年度の推計値を上回っていることに加え、長期総合計画の推計人口としては、各種行政サービスの対象の算定根拠となる「住民基本台帳人口(含む外国人登録人口)」を基にした推計が適切であると考えられます。

以上により、第4次長期総合計画の目標年次である平成32年の人口は、「手法」の推計値から次のように設定します。

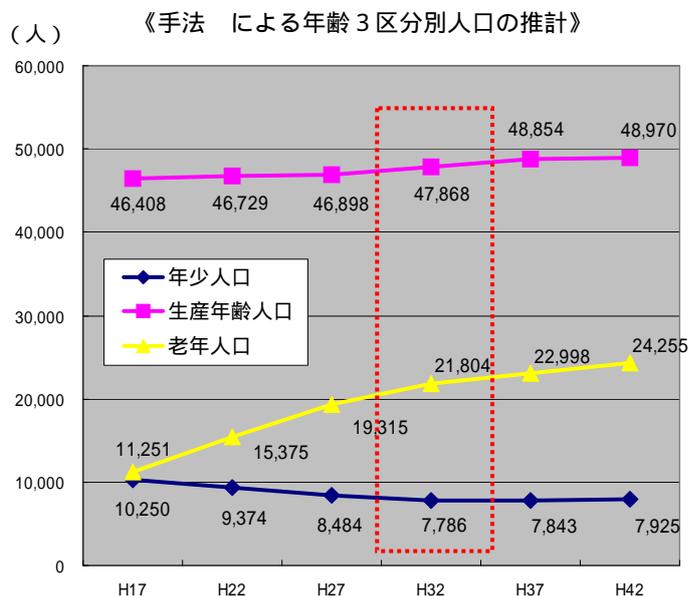
平成32年(西暦2020年)の人口
約78,000人
 「住民基本台帳人口」+「外国人登録人口」

(4) 年齢3区分別人口の推計

手法 による「年齢3区分別人口」の推計では、老年人口（65歳以上）の全人口に占める割合が28.1%と大きく伸び、少子・高齢化が一層進むことが予想されます。

	平成17年（実数値）	
年少人口	10,250人	15.1%
生産年齢人口	46,408人	68.3%
老年人口	11,251人	16.6%
合計	67,909人	100.0%

	平成32年（推計値）	
年少人口	約8,000人	10.3%
生産年齢人口	約48,000人	61.5%
老年人口	約22,000人	28.2%
合計	約78,000人	100.0%



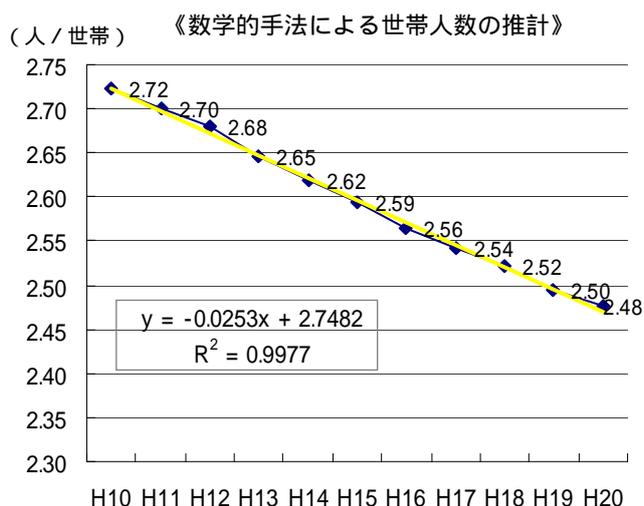
(5) 世帯人数の推計

さらに、世帯人数の推移を見ると、右グラフのように年々減少しており、少子化の進行により、今後もこの傾向が続くと予想されます。

数学的手法による近似式に当てはめると、平成32年(x=23)の世帯人数は約2.17人となります。

	平成17年（実数値）
総人口	67,909人
世帯数	26,705世帯
世帯人数	2.54人/世帯

	平成32年（推計値）
総人口	約78,000人
世帯数	約36,000世帯
世帯人数	2.17人/世帯



(6) 昼夜間人口の推計

昼夜間人口比の推移を見ると、平成7年に0.885:1となり、その後、0.9:1に近づいてきています。これは、年少人口や生産年齢人口が減り、老年人口が増えていくことが影響していると予想され、年齢3区分別人口の推移を勘案すると、この傾向は続くと考えられます。

そこで、平成32年の昼夜間人口比を0.9:1とし、夜間人口(=推計人口)約78,000人に対し、昼間人口を約70,000人と推計します。

	夜間人口(人) [a]	昼間人口(人) [b]	昼夜間人口比 [b : a]
昭和60年	60,834	58,093	0.955 : 1
平成2年	65,201	58,084	0.891 : 1
平成7年	66,966	59,270	0.885 : 1
平成12年	66,015	59,053	0.895 : 1
平成17年	66,368	59,591	0.898 : 1

(各年10月、国勢調査)

